

眼鏡合わせを希望される方へ

眼鏡を希望されて受診される方の場合、視力検査と眼底検査、必要に合わせ散瞳後に屈折検査を行います。眼底検査は目薬を使い散瞳（瞳孔を開く）検査を行います。散瞳が必要な理由は、見えずらさの原因が視力の度数なのか、目の病気によるものなのかを調べる必要があること、お子さまの場合は散瞳前の屈折検査のデータが不正確であり、正しい度数で処方するには散瞳が必要になるからです。

散瞳後は、眼鏡の度数を決める検査ができなくなります。そのため**最初に受診した日には処方箋をお渡しできません。後日、もう一度来院していただき、眼鏡度数の検査を行った上で眼鏡の処方箋をお渡しいたします。**

より正確な眼鏡あわせのために必要な検査ですので、ご理解ください。

※散瞳検査（瞳を開く）について

散瞳は、目薬を使って瞳（瞳孔）を広げる検査です。

目薬をさして15～30分くらいで瞳孔が開きまぶしさや見えにくさを感じます
この症状は点眼後3～4時間続きますが、時間が経てば回復します。